式　辞

春爛漫のこの佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、令和五年度入学式を盛大に挙行できますことに深く感謝し、心より御礼申しあげます。

ただいま入学を許可いたしました三二三名の皆さん、入学おめでとう。心からお祝い申しあげます。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。立派に成長された姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、新入生の教育に努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申しあげます。

新入生の皆さんは、百有余年の歴史と伝統を誇る二校の統合により誕生した本校で、三年間を過ごす権利を得ました。関門を突破してつかんだ幸せをしっかりとかみしめ、これまで育んでくださった多くの方への感謝の気持ちとともに、今日（きょう）の決意を心に刻（きざ）みつけてください。

さて、高校生活の始まりに当たり、学習についてお話します。解剖学者の養老孟司先生は「学習とは、文武両道である」といいます。両道とは二股を掛けることを意味し、それぞれ別々にということではありません。脳でいうなら、「文武」は知覚と運動です。知覚から脳に情報が入り、運動として出ていきます。運動の結果は状況を変えます。その状況の変化が知覚を通して脳に再び入っていきます。こうして知覚から運動へ、運動から知覚へという回路、つまりループが成立します。学習とは、このようなループが様々に出来上がることだと書いています。

例えば、読書をします。一行ずつ文を読み進めること、これが知覚です。読み取った内容が脳に入り、著者の考えが整理・分析され、著者のいいたいことはこうだ、というように言語化されます。話したり書いたりすることも運動です。あなたの話や文章に対して教師や友人がコメントします。そのコメントを見ることで、あなたの脳に新たな情報が入ります。そして、以前の話や文章が修正されます。こうした繰り返しが学習なのです。

ビデオ教材が発達した現代では、「視ているだけ」で学習したつもりになってしまいがちです。これでは運動がないことに気づくことと思います。「身に付ける」ためには、話したり書いたりといった運動が必要です。

身体を動かす機会があると、この話がよくわかるのではないでしょうか。ＷＢＣをテレビにかじりついて観ていたとしても、野球が上手くなるわけではありません。自分で身体を動かし、うまくいかない要因を考え、修正を繰り返す必要があります。これも学習です。

「文武両道」とは、「文」つまり見たり聞いたり感じたりしたことを自分の脳で考え、「武」つまりその考えを身体や言語で表現することを繰り返し行うことだと理解してください。そして、高校生活で「文武両道」を実践してください。

もちろん、皆さんには得意な分野もあれば、そうでない分野もあるでしょう。知識欲が旺盛な人もいれば、行動力に優れた人もいるでしょう。「あの人はできているのに、自分はできない……」と比較して落ち込む経験は、誰しもあるものです。

そんな時は「ありのままの自分」を受け入れ、今やれることをやってみましょう。「やるなら完璧にやろう、でも完璧に出来ないならやめてしまおう」という考えを「〇・一〇〇思考」、「全か無か思考」などといわれます。そういう思考から抜け出し、完璧でなくても、その時、出来ることを少しでもこなしていきましょう。

「十人十色」といいます。我々はそれぞれ異なる存在です。それぞれ違った目的地に向かって、異なる道を歩んでいるようなものです。目的地の方向がわかる人もいれば、そうでない人もいるでしょう。道のりの長短や難易度、歩く速度も人それぞれです。旅の途中、想定外の困難によく遭遇するものです。しかし、本校に入学する実力を持った皆さんです。目的地に近づけることを信じ、根気強く努めてください。回り道でさえ自分を高めるよい機会になります。ゆっくりになったり休んだりしたとしても、歩み続けようとする決意をもって、社会に貢献する人材に成長してください。

保護者の皆様におかれましては、これからもお子様を見守っていただき、日々の生活をサポートしていただきますようお願い申しあげます。そしてお子様のよい点を認めながら、さらなる成長をご支援ください。

結びに、新入生の皆さんにとって、高校生活が実り多きものとなるよう祈念し、式辞といたします。

令和五年四月十日

群馬県立桐生高等学校 校長　　髙橋　浩昭